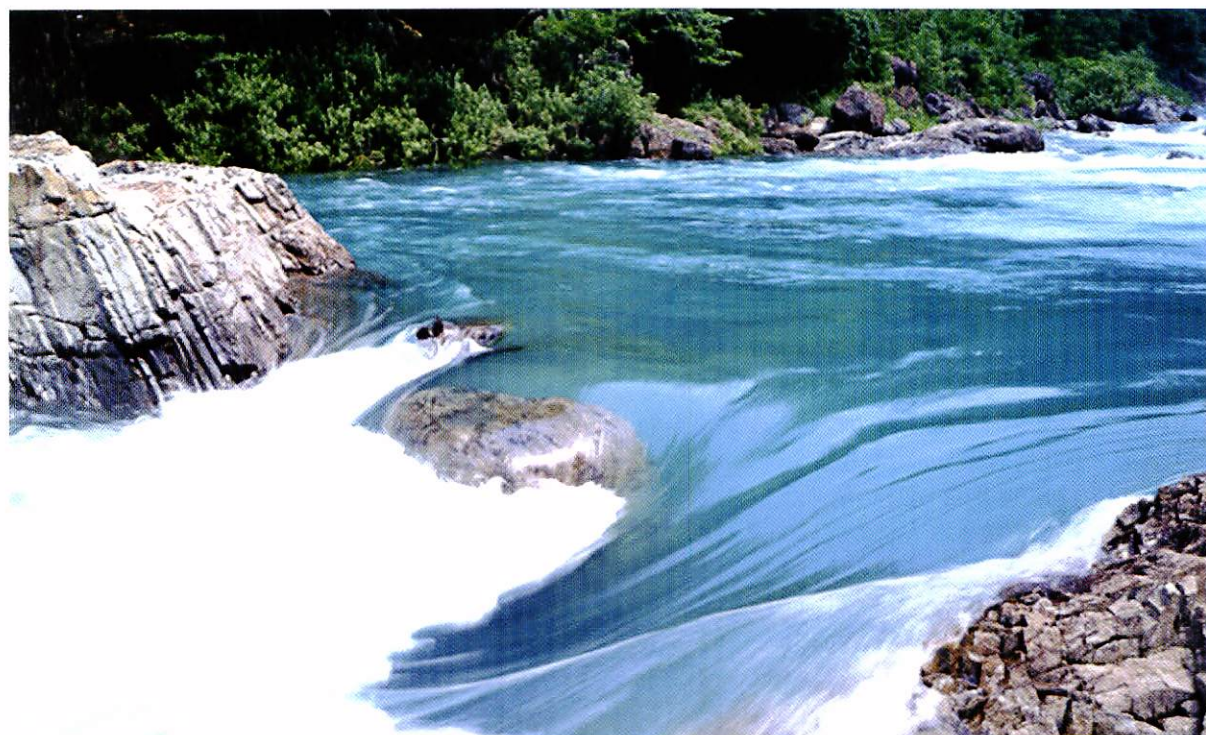


■ 北海道情報大学学内報



● 目 次 ●

<p>新入生を迎えるにあたって 学長 久野 光朗・・・2</p> <p>これからの経営情報学部へ 経営情報学部長 林 雄二・・・3</p> <p>校舎増改築にあたって 事務局長 中居 聡士・・・4～5</p> <p>私の読書観Vol.4 経営情報学部教授 立花 峰夫・・・6</p> <p>本学と岩見沢緑綾高校との 連携教育協定締結に関する報告 ……7</p>	<p>就職コーナー ……8～9</p> <p>卓球部 2部昇格 ……10～11</p> <p>イベントサークル紹介 ……12</p> <p>YOSAKOIソーラン ……13</p> <p>主要行事・編集後記 ……14</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

発行・北海道情報大学

〒069-8585 江別市西野幌59-2 TEL011-385-4411 FAX011-384-0134



新入生を迎えるにあたって

学 長 久 野 光 朗

わが北海道情報大学は、平成元年（1989年）、故松尾三郎初代理事長の尽力によって、札幌市の東に隣接する江別市のここ野幌の地に誕生しました。当初、経営学科と情報学科の2学科からなる経営情報学部のみ単科大学でありました。ついで、同学部を母体として、平成6年に通信教育部が設けられ、平成8年には大学院修士課程が設置されました。

さらに、平成13年、情報メディア学部が増設されると同時に、情報化時代の教育に即応するべく「情報」に関する教職課程も設置され、ここに大学院を有する複数学部からなる大学へ成長してきました。そして、さらに本年度から経営情報学部の2学科がそれぞれ経営ネットワーク学科とシステム情報学科へと名称を変更いたしました。この学科名称の変更は、たんなる形式的名称変更ではなく、IT時代を迎えて、時代にそくしたカリキュラム内容の改善と歩調を合わせた実質的・進化的名称変更であります。

先に言及した初代理事長の建学の精神は、「国際化」と「情報化」に対応できる人材の養成であったと伺っています。まことに時代精神を先取りしたものであり、先見の明があったといえるでしょう。この「国際化」と「情報化」という建学の精神は、いまでも本学の研究と教育の両面において貫かれている貴重な精神なので、北海道情報大学という組織の一員になった諸君たちも、ぜひ銘記しておいていただきたい。

「国際化」とは、ものごとを地球規模で考え、地域に根ざして活動できる心身ともに健全な国際人になることを意味しています。他方、「情報化」とは、真の知性（intelligence）に裏づけられた、人間性・倫理性を十分に備えた情報の生産・伝達・消費の過程に携わる人材になることを意味しています。

ここで、新入生諸君を迎えるにあたり、小生の敬愛するフランスの人道主義的作家R. ローラン（1866-1944）の『ジャン・クリストフ』という作品から、次の言葉を贈ることにしよう。

「けっして誤ることのないのは何事もなきない者ばかりである。生きてる真理のほうへ邁進する誤謬は、死んだ真理よりもいっそう豊饒である。」
（豊島与志雄訳）

R. ローランは国際平和運動にも尽力し、ノーベル文学賞を受賞している作家であるが、私が彼の作品に心を奪われたのは、ちょうど現在の諸君たちと同年代で、大学へ入学した直後のことです。彼の短編小説には『ベートーヴェンの生涯』とか『ミケランジェロの生涯』などがあり、長編小説もしくは大河小説と称されるものには先の『ジャン・クリストフ』のほか『魅せられた魂』というのがあります。いずれも真摯に人生に立ち向かい、努力して自己実現を果たすうえで大きな力を与えてくれました。まさに、L.vanベートーヴェン（1770-1827）の交響曲第9の中にある、あの「歓喜の歌」に出てくる「苦悩を通じて喜びを！（Durch Leiden Freude!）」という言葉をもつて知ることができるはずです。諸君たちも、ぜひ読んで大きな刺激を受けるようにしてください。

ちなみに、私が専攻している会計学という専門分野において、今日世界中で利用されている複式簿記という計算形式があるのですが、その複式簿記を活版印刷によって初めて世に紹介したルネッサンス期のイタリアの数学者でL. ダ・ビンチ（1452-1519）とも親友だったL. パチョーリ（1445?-1517）という人物がいます。彼は、通称『スンマ』（1494）という数学書の一部で当時のベニス商人たちが利用していた複式簿記を説明しているのですが、その中で二度にわたって次のような格言を引用しています。

「何事も為さざる者は過ちを犯すことなし。過ちを犯すことなき者はなにも学ぶことなし（Who does nothing makes no mistakes, who makes no mistakes learns nothing.）。趣旨としては先のR. ローランの言うところと同じだと思います。私はこの警句を人生のモットーとしてきました。

世の中には、あれもしよう、これもしようと思うだけで、実際には手をくたさないで人生を終えてしまう人が多いのです。若い諸君たちは、どうかいたずらに失敗や過ちをおそれず、自分の出来るところから手をくだし、積極的にトライするようにしてもらいたいものです。われわれ教職員は喜んでそのための力添えをさせていただきます。



これからの経営情報学部へ

経営情報学部長 林 雄 二

1. はじめに

経営情報学部では、情報化時代に能力を発揮することができる経営と情報の両面の知力を備えた人材を育むことを目標にしています。昨年秋には、各学科と教養教育の特徴をさらに明確化する為に、カリキュラムの改訂と共に学科の名称を新たにしました。こうして、時代をリードする教育を盛り込むべく、教員も心を新たに取り組む契機が訪れました。学部内の学科、部門がそれぞれの特徴を生かし、教育・研究の充実を図ることが特に重要だと思います。

この機会に、私の感じている経営情報学部ないし本学の抱える課題を、教育の改善、学生へのサービス改善、学内情報のシステム化に絞って述べることにします。

2. 教育の改善

学部の理念を掲げても、一方では、大学大衆化がその実現を困難にしていると指摘する声が聞こえてきます。しかし、例え大学大衆化の時代になろうとも、大学人としての夢には変わりがありません。それは、大学が社会に有為な人材を輩出することです。そのために、教育の改善や、学生にインセンティブを与えるサービスなどが益々大切になってきたことには疑いがありません。

教育改善のヒントの幾つかは実験系学科の教育方法にあると考えます。FD(Faculty Development)の議論の場では、実験系と非実験系での教育姿勢の相異が必ず話題になります。実験では、必ず少数での指導が行われ、学生は体験を通して学び、その結果、問題に対する具体的なイメージを抱くようになります。このような教育方法の成果が、技術立国日本を造り上げてきたといっても過言ではありません。我々教員は、教育の効果をあげるために、工夫を凝らす不断の努力を重ねることが必要と思います。実験系の教育方式は、参考にする価値のある一つに違いありません。

3. 学生へのサービス改善

大学が大衆化していることでは、学力低下の問題のみが取り上げられますが、看過できないのは、学生の指向が多様化してきているということです。北海道情報大学を選択して入学してきた学生は、それぞれの方向の未来をこの大学で描こうと考えています。

抱く目標は様々、「時分の華」として生き生きと充実した学生生活を送るよう、我々大学人が手を貸してやる必要があるのではないでしょうか。学生が輝いていることが、我々の喜びなのです。多様化した目標としては、学問と研究で知力を磨くことはもとより、コンピュータの技術、クラブ活動、イベントへの取り組み、資格取得、海外留学、社会活動、各種コンテスト参加など、様々な方面に情熱を注ぐことがあるでしょう。規模の大きくない我が大学では、それぞれを指向する学生は一握りかも知れません。しかし、目標に向かって努力する人材が増えることが大学の活性化に繋がることでしょうかから、たとえ少数人数でも、目標達成に大学として手を貸すべきであると思うのです。「今の学生は自分から積極的に取り組もうとしない」と嘆く声を、耳にしたくはありません。

4. 学内情報のシステム化

大学運営のあらゆる面に、情報大学にふさわしいITの活用をすることが急がれています。情報大学だからこその大学に先んじて実施していることがある。それが、学生の意欲と大学への誇りに繋がるものです。もっと多くの科目でコンピュータやLANを活用した教育を行うことは可能なはずで、学生の大半がパソコンや携帯電話を保有している現在、大学から学生への情報提供は学内の掲示板を通すことだけではないはずで、教育面に限りません。学内では、いかに多くの紙がほんの一瞬覗かれただけで捨てられていることでしょうか。

このような課題に取り組む為に、IT化を可能にする学内組織を充実することが急がれます。情報大こそ、時代の模範となる教育情報システムが展開される場でありたいものです。

5. おわりに

経営情報学部(ないし本学)は、解決すべき多くの課題を抱えていると思いますが、本稿ではほんの一部を指摘させていただきました。我々教職員は、共通の夢に向かって不断の改善努力をすることが必要だと思います。個々人の能力が高いだけではチーム力とはなりません。目標の方向へ全員の意志ベクトルが結集されることが必要だと思います。一つ一つは小さい改善かも知れませんが、それを積み重ねつつ、夢に向けて力を合わせて進みたいものです。

校舎増改築にあたって

事務局長 中居 聡 士



今日、大学は冬の時代に突入し、その生き残りをかけて前向きに改革に取り組んでおります。

本学においても教育改革の一貫として、経営情報学部のカリキュラムの変更などを伴う名称変更など積極的に改革を推し進めております。一方、研究・教育の環境の充実を図ることも最も大事な課題の1つであります。学生が自由にのびのびと高度な教育を受けられる校舎の整備は特に重要なことであります。

本学においては、平成14年度より校舎の増改築に着手し、その第一期工事として昨年10月下旬から校舎棟2号館（鉄筋コンクリート造2階建 総面積3123.7m²）、並びに部室（軽量鉄骨造2階建 総面積288.8m²）の工事がスタートしました。現在、工事は順調に進んでおり、4月20日には竣工する予定であります。また、第二期工事として、旧校舎の外壁を中心とした改修工事を4月から9月まで6ヶ月かけて行ないます。この工事をもって松尾記念館、旧校舎、新校舎とも外壁のカラーはほとんど統一され、緑の中の落ち着いたグレーの校舎に生まれ変わります。

校舎棟2号館は単に教室の不便さを解消するだけでなく、学科増設などの拡張にも対処した教室のスペースを確保してあります。1階に中教室

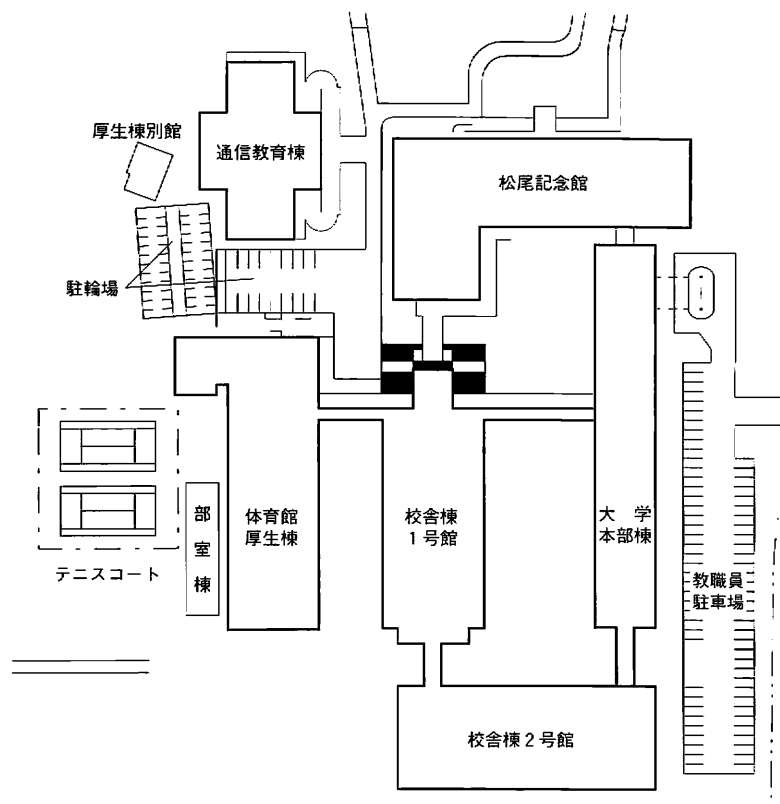
5室（各126席）、小教室4室（各88席）、そして2階に大教室3室（249～313席）、ゼミ室（各24席）を設けております。今回の校舎はブロック毎に落ち着いた雰囲気を醸し出すように色彩を重視しました。女子学生も明るい気持ちで授業が受けられるように特に配慮したつもりであります。各教室の天井、壁、床はもちろんカーテン、机、イスまで配色・バランスを考えております。大教室・中教室は薄緑色、小教室は薄黄色、ゼミ室は淡い赤色を中心にカラーを決めております。

また、視覚効果を最大限授業に活かせるように大教室3室・中教室3室に液晶プロジェクター、プラズマディスプレイを完備しました。簡単にパソコンやDVD、書画カメラ等を操作できるように操作卓に電源制御等の工夫もしております。他の小教室においても全室プロジェクター、パソコン等が使用できるよう設備してあり、教育効果の向上に役立つものと考えております。

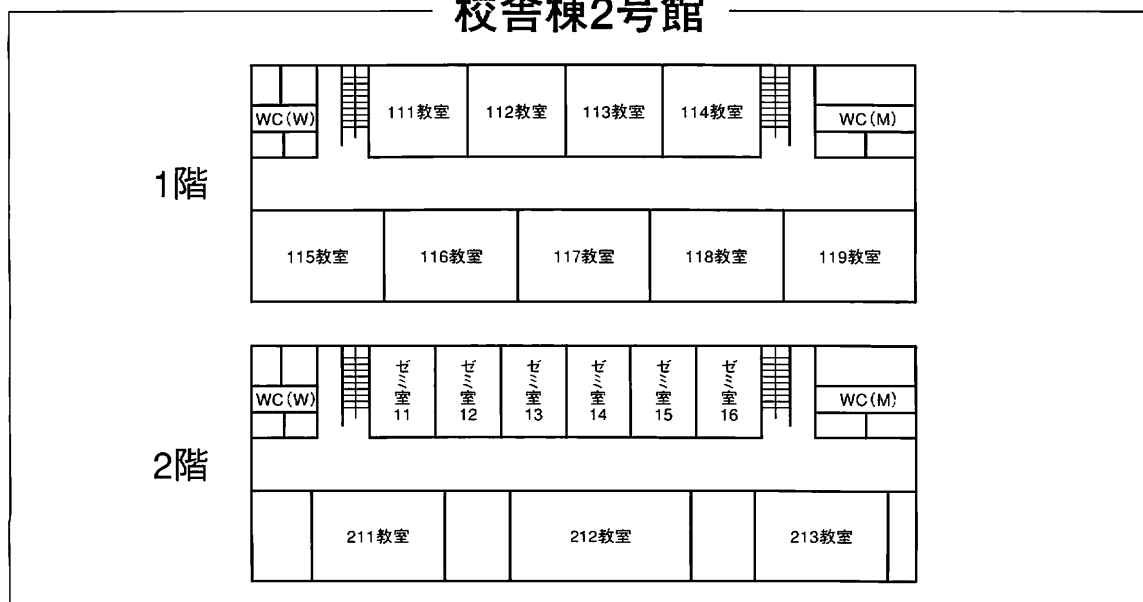
そして今回は、身障者にも配慮した校舎になっております。身障者専用トイレをはじめ、大教室前列には身障者用固定式机を配置し、身体の不自由な学生であっても十分に教育を受けることが可能なように配慮しております。

このように新校舎は今までの校舎とは全く異なる新しい感覚で建築するものであり、本学の教育環境の充実を一步前進させることができたと思っております。

校舎全景と校舎棟2号館・部室棟 (概略図)



校舎棟2号館



私の読書観 Vol. 4



出会いとしての読書

経営情報学部教授 立花 峰 夫

私達は生涯どれだけの本を読むのだろう。詳しいことは分からないが、千差万別であることだけは確かだ。信じられないほど多くの本を読み漁る人がいる一方で、ほとんど読書と無縁の人もいる。大量の蔵書のためにマンションを買い替える人もいれば、ほとんど持たぬ人もいる。私の持っている本など高が知れたものだが、それでも子供の成長によって部屋が次々に専有され、持て余された本の姿を見ると惨めな思いがする。我が身の置き所と重なってしまうからだろう。

メディアとしての本の特徴をよく表した汗牛充棟という言葉がある。大量の本が牛ばかりではなく人をも押し潰してしまいそうな感じがあって、なかなか味わい深い。考えてみれば、そうした本の圧迫を跳ね返すほどの強靱な精神の持ち主でなければとても本を集めることはできないのだ。

以前、私はある故人の蔵書整理の手伝いに行ったことがある。家中、本だらけの様を見て驚いていると、奥様が「私より本を大事にしていましたから」とぼつりと言った。本の虫に対するやきもちと思われたが、奥様の言葉には、今にして思えば、そればかりではなく、ある恨みのような思いが込められたていたような気がする。というのも、年々増殖する書物は、同居する家族にとって一種の脅威であったと思われるからである。

また、学生時代に恩師の新居を訪ね書庫と書斎を拝見したことがある。その蔵書の多さに腰を抜かしたのは言うまでもないが、強く印象に残ったのは床の作りがふつうの家と異なっていたことだ。大量の本を収蔵するには何よりもまず床が抜けられないということであった。考えてみれば当たり前のことだが、持ち家どころか本の冊数もわずかばかりの学生であった私に、私設の図書館といった風情の恩師の書斎と書庫は鮮烈な印象を与えた。

ところで、私にも思い出深い本がいくつかある。

例えば、高校時代に図書室で読んだ筑摩書房版『一葉全集』。あの臙脂色のハードカバーの本だ。「闇夜」「十三夜」「大つごもり」「たけくらべ」などを引き込まれるようにして読んだことが、本の匂いとともに思い出される。また、課題として読んだ松浪信三郎の『実存主義』（岩波新書）やJAMES KIRKUPの『Japan Now』なども忘れられない。前者は、内容を十分理解できたとも思われないが、現代思想のただ中いきなり入り込んだ気分を味わった。後者は一冊の英文を読んだ最初の本だ。

その後、私はいろいろの本と出会った。とりわけ強く関心を持ったのは小林秀雄である。高校時代の友人の下宿で初めて見た、モスグリーン革張りの背表紙に刻印された「小林秀雄全集」の金モールが今でも鮮明に目に焼き付いている。大学に入ってから私はそれを古本屋で購入したが、手にしたときの興奮も忘れがたい。小林秀雄は大学入試によく出題される評論家として有名であったが、そうした関心とは別に、私には文学と人間を知る上で欠くことの出来ない大きな存在であった。小林の全集を読むのは骨が折れたが、私は少しずつ丹念に読んだ。著者の関心は途轍もなく広く、未知の世界に拉致されたようであった。その深く鋭い批評は、私自身の無知を徹底的に明らかにしてくれた。それは貴重な体験だった。私は自分の関心に即し繰り返し読み、卒業論文を書いた。何か取り憑かれたような読書体験であった。

人には必ず出会う本があるのではないか。それは限られた一冊の本であるかもしれない。私の場合それは小林の全集であったが、厳密に言えば、そこに導いたのは吉本隆明や江藤淳、あるいは亀井秀雄という批評家たちの小林秀雄論であった。本との出会い、それは人との出会いでもあるのだ。人として生きることは本（言葉）と出会うことでもある。そのことを教えてくれたのも小林秀雄その人だった。

本学と北海道岩見沢緑陵高等学校との 連携教育協定締結に関する報告

調印式日時 平成15年2月26日(水)13時30分
場 所 三井グリーンランド・ホテルサンプラザ
(岩見沢市4条東1丁目)

出席者 ☆本学
・久野 光朗 学長
・関 正治 教授(経営情報学部教務委員長)
・井野 智 教授(情報メディア学部教務委員長)
・加藤 邦雄 教務課長
・園田 淳一 法人本部企画調査室室長

☆北海道岩見沢緑陵高等学校
・深澤 宗明 校長
・阿房 節雄 教頭
・土本 栄作 事務長
・相澤 清 総務部長
・片桐 敏彦 教務部長
・他 7名

☆岩見沢市教育委員会
・堀 敏一 教育長
・浅井 幸雄 管理学務課主幹

〔協定締結に至るまでの経緯及び今回締結した連携教育の概要〕

昨年(平成14年)の8月頃本学に打診があった高大連携に関して、10月16日に岩見沢緑陵高等学校の深澤校長と阿房教頭が来学し、久野学長に対して自校との連携教育に関する協力要請がなされた。これを契機として、以降このことについての協議が重ねられた。

年が明け、1月28日に先方から協定締結についての具体案が示され、若干の調整をしたあとは2月26日の調印式に向け急ピッチで準備が進められた。

調印式では、はじめに出席者の紹介があり、続いて久野学長と深澤校長が署名した協定書を交換した後、久野学長と堀教育長が挨拶をして14時に式が終了した。

今回締結した連携教育の概要は次のとおりである。

昨年設置した岩見沢緑陵高等学校の情報コミュニケーション科が、2年目を迎える平成15年度、2年生を対象としたデータベース及び文書デザインの2科目を、本学の教員が担当することとした。

データベースについては、本学の教員が6月、8月、

10月に各1回岩見沢緑陵高等学校に出向いて授業を行い、また文書デザインについては、16年2月に1回だけ生徒80人が本学にきて約6時間のコンピュータ実習をするといった内容のものである。

なお、平成16年度には3年生を対象としたコンピュータグラフィックの授業担当が予定されている。



就職コーナー

就職課ホームページと 求人票閲覧Webシステム のご案内【全学生対象】

本学就職課では、皆さんの就職活動を支援するために、大学に届いた求人票と本学通信教育部教育センターに届いた求人票をインターネットで閲覧するためのシステムを運用しています。このシステムには就職課ホームページからはいることができます。

- (1) 使用可能なマシン：学内のマシンのみ（自宅のマシンからは閲覧できません）
- (2) アドレス：
 - ①<http://jbb2.do-johodai.ac.jp/>の就職課ホームページから「北海道情報大学求人検索」に進んでください。
 - ②公式ホームページ（<http://www.do-johodai.ac.jp/>）から学内サーバに入り、そこにリンクされている「就職情報」からでも就職課ホームページに入ることができます。
- (3) 閲覧可能な求人票：
 - ①本学で受理された求人票
 - ②全国17ヶ所の教育センターで受理された求人票
- (4) 閲覧できる内容：

求人企業の基本情報、求人内容、説明会情報、求人票のイメージ画像 等

このシステムの運用によって、学内のマシンからであれば就職課の窓口営業時間を気にせずに企業情報を閲覧することができますので、是非利用して下さい。就職課のホームページにはその他にも「就職指導スケジュール」、「連絡事項」、「就職活動の進め方」、「現在の本年度内定状況速報」があります。定期的にチェックして就職活動の参考にして下さい。

図書館を活用しよう

本学図書館には、就職に役立つ書籍やビデオが準備されています。今回はその中からいくつかビデオを紹介します。

【成功する就職活動シリーズ】（ダイヤモンド・ビッグ社）

就職活動にすぐに役立つシリーズです。図書館には、会社を見極める編・職種の研究編・エントリーシート編・合格する面接編・コミュニケーション能力アップ編の計5本があります。なお、自己PR編・インターネット編・本当に基本のマナー・就職の不安解消編の4本は就職課にあります。こちらも閲覧可能ですので希望者は申し込んで下さい。

【ビジネスマナーのすべて】（日経VIDEO）

こちらは社会人になったときに恥ずかしくないための基礎マナーです。一度見ておいてはどうでしょうか。第1巻：あいさつ、言葉遣い、敬語の使い方／第2巻：職場のマナー、受命と報告、対人関係／第3巻：電話のかけ方、受け方／第4巻：訪問と対応のマナー／第5巻：接待、冠婚葬祭、テーブルマナー／第6巻：電子メールのマナー

すでに内定をもらった学生へ 【学部新4年生・ 大学院新2年生対象】

早々に内定おめでとう！ところで就職課は、皆さんの内定について状況を把握する必要があります。**内定をもらったら必ず就職課に連絡をして下さい。**また、今後も活動を続けるのであれば、重複内定をもらう可能性もあります。その際いずれかの内定を辞退するわけですが、内定辞退は様々な問題を引き起こすことがあります。内定辞退を簡単に考えずに、慎重に対処して下さい。就職課ではいつでも相談を受け付けています。

平成15年3月15日現在就職内定率

()は女子内数

区 分	経営学科	情報学科	全 体
在 籍 者 数	111(10)	111(16)	222(26)
卒業予定者数	105(10)	104(16)	209(26)
就職希望者数	80(8)	79(13)	159(21)
内 定 者 数	73(8)	74(12)	147(20)
内 定 率	91.3%(100.0%)	93.7%(92.3%)	92.5%(95.2%)

札幌学生職業センターの
ご案内【全学年対象】

学生職業センターとは、新卒の学生及び卒業後1年程度の人を対象として、就職に関する情報の提供と職業相談を行う国（厚生労働省）の機関です。大学でも就職課のホームページから学生職業センターの求人情報を検索することは可能ですが、直接札幌学生職業センターに出向くこともできます。求人情報の提供、就職相談、面接用ビデオの放映などのサービスを受けることができます。是非利用してください。

場 所：札幌市中央区北4条西5丁目 三井生命札幌共同ビル7階
(道庁赤レンガ北隣)

TEL.011-233-0202

FAX.011-233-0505

利用時間：9:00～17:00(土・日・祝日・年末年始を除く)

交通機関：JR札幌駅より徒歩5分・地下鉄札幌駅より徒歩3分

学内説明会のご案内
【全学年対象】

次の通り学内説明会が実施されます。受験希望の学生や興味のある学生は是非参加してください。

国税専門官 受験説明会：平成15年4月14日(金) 13:00～ ゼミ室6

北海道警察 受験説明会：平成15年4月14日(金) 15:30～ ゼミ室5

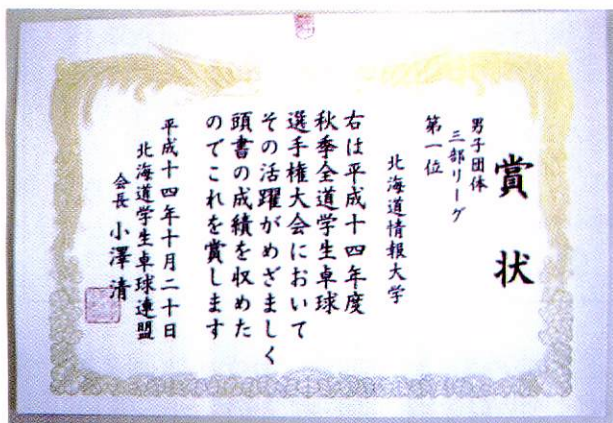
警 視 庁 受験説明会：平成15年4月24日(木) 15:00～ 1階会議室

学外合同就職説明会のお知らせ【学部新4年生・大学院新2年生対象】

皆さんが「知っている企業」はごく一部です。知名度は低くても、実はしっかりした業績の良い企業はたくさんあります。合同企業説明会とは、それまで知らなかった企業と出会うチャンスです。学外では多くの合同説明会が企画されています。知らない企業ばかりだからと敬遠せずに、自分の見聞を広げるつもりで、積極的にできるだけ多くの説明会に参加してみましょう。スケジュールは就職課のホームページや掲示板等で確認して下さい。

卓球部 2部昇格

卓球部代表 4年 佐藤 守



卓球部の夢(目標)、それは「全道学生卓球選手権大会」の団体戦で2部に昇格することでした。部員不足や練習時間・場所などの様々な問題を苦ともせず…と言ったらウソになりますが、なんとか昨年度の秋季大会で夢を叶えることができましたのです!

卓球部は92年に成立し、94年に初めて団体戦に出場したと聞かれています。結果は5部で5位(最下位…)。その後も結果が思うように伸びず、3部まで昇格するにも大変苦労したそうです。私が入部したときは、「3部優勝」という目標に向かい、大会の2、3週間前ともなると多くの部員が練習に精を出していました。普段の練習は…ノーコメントとさせていただきます。(練習時間や場所の問題が生じた原因に気付いた時期です…)翌年、3、4年生がいないために私が主将を務めることになりました。非常にやる気のある後輩が入ったのを機に、目標を「2部昇格」

夢じゃない!? あきらめず
そうじゃない!? 最後まで
誰でも初めは気付かないけど
必ず辿り着く
君の心の中に 希望があるから
苦しい時こそ願いは叶う
always そう信じて 見つめてみよう
たとえそれがつらいことでもね
No それだけが自分じゃない
Yes この一瞬ごとが明日の君になる
<always (抜粋)>

に改め、練習内容も以前より濃いものにしました。結局この年は目立った活躍もできずに終わったのですが、全体の實力は確実に上がっていました。そして、2002年度…。10周年を迎えた情報大卓球部に大きなプレゼントが贈られたのです。2部昇格という大きなプレゼントが…。

一人ひとりが自分を信じ、仲間を信じ、希望を失わず、夢を諦めなかった。それがこの結果につながったのでしょうか。また、私たちに練習を通して指導を下さった前田先生やチャールズ先生、石井先生の存在も大きなものでした。…と、当初はここでHappy Endにするつもりでしたが、この後予想外の展開が待ち受けていたのです。

この2月に行われた「江別総合卓球選手権大会団体の部」で、我がチーム初のベスト4(チーム参加)に輝きました。景品も貰えて更にHappy!!

このように、現在情報大卓球部は成長期にあり、今後もよりよいチームへ伸びると信じています。単に強いという意味ではなく、どちらかといえば楽しい、そんなチームを目指しています。というわけで、最後に部員募集をしたいと思います。實力は問いません。勿論強くなりたい人には指導もします。楽しくサークル活動をしたい方は是非、先輩後輩の壁が全くと言えるほど少ない卓球部へ!!

ご声援ありがとうございます

秋季全道学生卓球選手権大会 (2002年10月、滝川スポーツセンター)

●2部3部入れ替え戦

情報大	○	3-2	×	旭川大学
-----	---	-----	---	------

2部昇格決定!!

●3部リーグ 4戦全勝

情報大	○	3-0	×	酪農学園大
	○	3-1	×	札幌学院大
	○	3-1	×	帯広畜産大
	○	3-2	×	小樽商科大

よく頑張ったね! 卓球部の諸君の快挙を祝う!

卓球部顧問 前田 隆

情報大学の卓球部が発足してから、今年度で丁度10年になります。最初は、実質3名ほどのメンバーで当時は賑やかだった体育館の片隅でこつこつ練習をしていた姿が思い出されます。北海道学生卓球連盟は、現在17大学が参加して4部リーグに分かれているようです。今回のすばらしさは3部で全勝優勝の上、強力な旭川大学との「入れ替え戦」に勝利したということです。長年、応援・技術指導を続けたチャールズ先生共々、喜びたい。

最近の公式卓球は、11本先取の5セットゲームで一昔前の21本と違って試合テンポが非常に速くなっています。例えば、5-8などとなるとそのセットはもう苦しくなります。団体戦は、単・単・複・単・単の5試合3勝先取なのでオーダが重要です。情報大チームは前陣・攻撃型のドライブマンの他に守備・反撃型のカットマンが2名いるので、対戦オーダに変化を付けられます。今回は、日頃の練習の成果とともに頭脳的なオーダの配置でも勝っていたといえるかも知れません。さて、次は2部での優勝と1部への昇格という大きな夢・目標を持って、新聞やテレビで報道される日を夢見てさらに頑張ろう!



(都合により個人撮影になりました)

「江別の冬を楽しもう ～天真2003～」に参加して

イベント・サークル 2年 伊藤 誓 師

2月9日に国際交流のイベントである「江別の冬を楽しもう～天真2003～」が野幌にある江別交流センターで開催されました。このイベントは、名前のとおり江別の冬を楽しみ、外国の方々はもちろん江別市民の人々、小学生から大学生等、様々な人が交流することを目的としています。サブテーマの“天真(てんしん)”は中国語で「無邪気な」、「童心に返る」等の意味があり、大人の方でも大いに楽しみ満足してもらいたいと言う意味で“天真”とつけられました。

このイベントの企画は北海道情報大学のイベント・サークルとボランティア・サークル、浅井学園大学の学生サークル、ヒッポファミリークラブ、江別市民国際交流協会と江別国際センターが行いました。北海道情報大学からはイベント・サークルとボランティア・サークルというサークルのメンバーが16名、教員1名が参加しました。イベントの実行委員長はイベント・サークルの中野龍彦さんが担当しました。このイベントはセンター内でのイベントと屋外でのイベントにより構成されました。センター内では、野幌高校の「ウォームス」という2人組みによる歌、一般参加のグループ「ウイラコチヤ」による演奏、



(写真展会場)



(たこ作りコーナー)

マジックショー、浅井学園大学の混声合唱団による合唱があり、その他に凧作りコーナーやバザー、料理などが振舞われました。屋外では雪像作り、宝探しゲーム、風船割りゲーム、そりレース、的当てゲームが行われました。また、センター内で作った凧をあげたり、温かい飲み物や食べ物が振舞われました。屋外でのイベントの一つとして雪像作りが企画されました。雪像作りに参加した人たちには、子どもよりも熱心に雪像を作る親や、無邪気に雪像を作る大人の人々などがおられました。また、宝探しや風船割りなどのゲームには、自分たちの仕事を忘れてゲームに参加している実行委員がいたり、参加者も実行委員もそれぞれが江別の冬を楽しんでいる様でした。イベントに参加した人々は130名以上になり、その中には海外6ヶ国からの参加者もおられました。

私たちはこのイベントをとおして、人と人のふれあいができる場を提供することがどれほど難しいものかが少しわかった気がします。それと同時に、人と人がふれあったり、交流しているところを見たりすると苦労したかいがあったと思いました。また、このような貴重な体験をすることにより大学では学べないことが数多く学べたような気がしました。



YOSAKOIソーラン

「江別まっことええ&北海道情報大学」チーム誕生

これまで、本学にはYOSAKOIソーランチームがありませんでした。

しかし、年々盛んになるYOSAKOIソーラン祭りに参加したいという声もあり、今年こそはと関係者一同取り組んでまいりました。

しかしながら、全て初の取り組みでもある為、関係各位のお世話を頂き、地元江別では歴史もあり受賞歴も豊富な「江別まっことええ」チームと合流させていただくことになりました。

この2月5日、本学において、両者の代表が会合を持ち正式に決定したものです。

チーム名は「江別まっことええ&北海道情報大学」です。

2月20日から、既に合流しての練習が開始され、6月に行われる本祭り目指して頑張っています。部員数は現在、大学チーム13名です。皆さん、一緒に踊りましょう。

5月の連休前後までに練習を始めると、本祭りに出場可能かもしれません。入会を希望される方、詳しい事を聞きたい方は、気軽に実行委員会までお問い合わせください。なお、入会申込書は、図書館カウンターにおいてあります。所定の事項を記入のうえ、図書館までご提出下さい。

YOSAKOIソーラン実行委員会

連絡先 学生窓口 図書館事務室 佐藤

学生委員長 中野龍彦

(メールアドレス ta2hiko@docomo.ne.jp)



(江別まっことええ、昨年の大会にて)



(本学のメンバーです)

◆◆ 教職員の動向 ◆◆
☆ 法人本部 ☆

- ◆事務職員人事◆
○定年退職 (3月31日付)
総務課長 野原 悠久
○出向期間満了 (3月31日付)
企画調査室長 園田 淳一
○配置換 (4月1日付)
法人事務局長兼総務課長 中島 安敬 (法人事務局長)
企画調査室係長 吉村 美穂 (就職係長)
○採用 (4月1日付)
広報室課長 野原 悠久

☆ 大 学 ☆

- ◆教員人事◆
○ (4月1日付)
経営情報学部長 林 雄二
情報メディア学部長 三本木 孝
学生部長 坂上 修二
経営ネットワーク学科主任 富士 隆
システム情報学科主任 中村 鎮雄
情報メディア学科主任 中岡快二郎
教養主任 加藤喜久子
○昇任 (4月1日付)
教授 松井 伸也 (システム情報学科)
助教授 鈴木 健治 (システム情報学科)
助教授 谷川 健 (経営ネットワーク学科)
○採用 (4月1日付)
助教授 竹内 典彦 (経営ネットワーク学科)
助教授 上原 士郎 (情報メディア学科)
助手 金 義範 (情報メディア学科)

- ◆事務職員人事◆
○退職 (3月31日付)
総務課長 吉田 三郎
○昇任 (4月1日付)
通信教育部事務部課長 木田 洋 (通信教育部事務部長補佐)
総務課人事係長 古川 啓子 (総務課)
会計課用度係長 高清水 靖和 (会計課)
入試課入試係長 古賀 朋子 (教務課)
大学院課教務係長 山隈 治子 (教務課)
○配置換 (4月1日付)
総務課長 風間 國康 (通信教育部事務部事務長)
会計課長兼大学院課長 山地 博之 (学生課長)
教務課長兼入試課長 加藤 邦雄 (教務課長兼大学院課長)
入試課 前 裕子 (教務課)
学生サポートセンター事務室長 中島 章三 (会計課長)
学生サポートセンター事務室課長 山田 順一 (就職課長)
学生サポートセンター事務室係長 渡利 国彦 (学生係長)
学生サポートセンター事務室 篤史 (学生課)
学生サポートセンター事務室 聡子 (就職課)
情報センター事務室長 島田 勝 (電算課長)
○採用 (4月1日付)
通信教育部事務部長 吉田 嗣治

◆◆ 1月～3月主要行事 ◆◆
☆ 大 学 ☆

- 1月6日(月) 新年交歓会
17日(金) 経営情報学部教授会
18日(土) 大学入試センター試験
19日(日)
24日(金) 情報メディア学部教授会
31日(金) 全学教授会
2月1日(土) 一般1期入学試験(経営情報学部)
2日(日) 一般1期入学試験(情報メディア学部)
14日(金) 経営情報学部教授会
15日(土) 大学院2次募集選抜試験(経営情報研究科)
21日(金)
28日(金) 全学教授会
3月3日(金) 経営情報学部教授会
5日(水) 一般2期入学試験(経営情報学部・情報メディア学部)

- 12日(水) 経営情報学部教授会
情報メディア学部教授会
14日(金) 学位記授与式(経営学科103名、情報学科97名、経営情報研究科5名)
16日(日) 情報メディア学部3年次編入学試験(追加募集)
27日(木) 全学教授会
28日(金) 企業説明会

<特記事項>
2月26日(水) 北海道情報大学と岩見沢緑陵高等学校との連携教育協定書締結式

☆ 通信教育部 ☆

- <入学選考>
1月24日(金) 第4回入学者選考
2月21日(金) 第5回入学者選考
3月7日(金) 第6回入学者選考
25日(火) 第7回入学者選考

<教育総合演習スクリーニング>
1月24日(金)～1月26日(日) 全国3カ所
2月7日(金)～2月9日(日) 全国3カ所

<体育実技スクリーニング>
2月4日(火)～2月6日(木) 福岡
2月12日(水)～2月14日(金) ニセコ

<後期印刷授業科目試験>
1月10日(金)～12日(日)、17日(金)～19日(日)

<再試験>
3月16日(日)

<その他>
3月20日(木) 学位授与式

◆◆ 広報活動 ◆◆

<高校1、2年生対象進学相談会>

1月～3月 道内約21会場

<高校への出張授業>

2月5日(水) 奈井江商業高校

2月6日(木) 弟子屈高校

2月21日(金) 旭川明成高校

3月13日(木) 旭川実業高校

<通信教育部説明会(本学独自)>

1月13日(月) 東京会場

1月25日(土) 大阪会場

1月26日(日) 名古屋会場

3月15日(土) 東京会場

<通信教育合同入学説明会>

2月8日(土) 東京、盛岡

2月9日(日) 東京、仙台

2月15日(土) 大阪、広島

2月16日(日) 名古屋、岡山

2月22日(土) 東京、札幌

2月23日(日) 札幌

3月1日(土) 名古屋、福岡

3月2日(日) 大阪、福岡

<校内ガイダンス>

2月26日(水) 旭川大学高校

3月12日(水) 札幌白石高校

3月17日(月) 苫小牧工業高校

<春のオープンキャンパス>

3月21日(金)

<TVCM>

1月 HBC、STV

2月 HTB、UHB

◆◆ 主な来校者 ◆◆

1月25日(土) 北海道空知支庁地域制作部 地域振興係長 岡 邦博 氏

2月13日(木) 北海道経済産業局 地域経済振興室 室長補佐 佐々木氏

江別市経済部 工業振興課 主任 大川氏

3月6日(月) 室蘭工業高校 教員 1名

編集後記

今年も、春がやってきた。四季の中で一番変化に富む季節でもある。社会的にも、新入社員、新入生と、新の字が目立つ。今回の「ななかまど」は、いつになく豊富な内容となった。やはり、キーワードは「新」である。新しい「人」「クラブ」「建物」。本学の発展の証しでもあり、誇りでもある。今年度も新鮮な紙面を創るよう頑張りたい。(S)

北海道情報大学学内報

「ななかまど」第26号

発行日 平成15年 4月 1日

発行 北海道情報大学

編集 学内報編集委員会